No.

人間ドック健診施設機能評価

書面調査票　Ver.4.0

1. 施設概要

【受付No】		◯ 新規	◯ 更新	初回認定日	
1-1	法人名				例：医療法人
1-2	施設名				例：△△病院
1-3	健診部門名				例：○○センター
1-4	施設管理者（氏名/役職）		役職		
1-5	都道府県／郵便番号		〒		
	市区町村・番地				
	※健診センターのある棟、階も明記				
1-6	電話番号		1-7 FAX番号		
1-8	事務連絡担当者／部署名		部署名		
	E-mail				
1-9	健診施設設立年月日	西暦	年	月	
1-10	ホームページ URL				

1-11　人間ドック健診の形式（複数回答可）

□	一日ドック
□	二日ドック

・学会の基本検査項目を含むコースをさす。

1-12　併設施設

□	1) 併設施設なし（単独）
□	2) 病院併設
□	3) 診療所/クリニック併設

・併設施設とは同一建物内、敷地内、近隣で、職員の業務や精密検査などで連携する同一組織内の診療施設をさす。

1-13　施設認定

施設認定取得等	□	日本医療機能評価認定
	□	国際医療機能評価機関（JCI）認証
	□	全日本病院協会認定施設（日帰り・1泊人間ドック実施指定）
	□	日本総合健診医学会優良総合健診施設認定
	□	全国労働衛生団体連合会（労働衛生サービス評価機構認定）
	□	日本脳ドック学会施設認定
	□	NPO法人 日本乳がん検診精度管理中央機構
	□	ISO9001（品質マネジメントシステム）
	□	ISO27001（ISMS）
	□	Pマーク（プライバシーマーク）
	□	臨床検査室の認定(ISO 15189)（公益財団法人 日本適合性認定協会）
	□	一般社団法人Medical Excellence JAPAN（MEJ）認証
	□	外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）認証
	□	人間ドック健診専門医研修施設（日本総合健診医学会・日本人間ドック学会）

1-14　その他設備、サービス

設備・サービス 併設施設（同敷地内）	□	巡回健診（健診車など）	□	運動施設(ジムなど)
	□	託児サービス	□	その他（詳細は下の欄に）

2. 職員

2-1　人間ドック健診業務の従事者数 ※1

		常勤（人）※2				非常勤（人）		合計（人）
		健診施設 専任または本務 ※3		病院・診療所 兼務		人数 ※4	ドック従事常勤換算③ ※5	①+②+③
		人数 ※4	ドック従事常勤換算① ※5	人数 ※4	ドック従事常勤換算② ※5			
医師合計　（自動計算）		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0
医師の内訳	内科							0.0
	外科（外科・乳腺外科）							0.0
	放射線科							0.0
	婦人科							0.0
	眼科							0.0
	その他の医師							0.0
保健師 ※6								0.0
看護師・准看護師								0.0
管理栄養士								0.0
診療放射線技師								0.0
臨床検査技師								0.0
視能訓練士								0.0
事務職員								0.0
その他								0.0
総合計		0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0

※1　上記表には人間ドック健診の業務に従事する人数を記入し、提出書類「組織図」との整合性を確認すること。

※2　**常勤（人）**：雇用形態（正社員・派遣社員・アルバイト等）に関わらずフルタイムで働くことを意味する。

※3　**健診施設 専任または本務**：病院・診療所併設の場合、主に健診に従事していれば健診施設本務扱いとする。

※4　**人数**：時間、日数に関わらず、人間ドックに従事する当該施設に所属する人数（整数）を記入する。

※5　**常勤換算数**：あくまでも人間ドックに携わる常勤換算数であり、 生活習慣病健診や労安法にもとづく検診など人間ドック以外の健診を実施している場合も、そのうち人間ドックに携わる従業者の比率を可能な限り常勤換算して記入する。
人間ドックとそれ以外の健診の比率は、受診者数比率や検査内容、面談や診察時間などから総合的に判断する。　・・・・・・≪詳細はP10を参照≫

※6　**保健師**：保健師資格を有する看護師は、原則保健師数としてカウントする。

2-2　部門責任者 等（健診部門）

	氏名	①当該施設在籍年数	①のうち健診業務経験年数	人間ドック認定医/人間ドック健診専門医	
医師(健診部長、センター長 等)		年	年	□ 認定医	□ 専門医
看護師・保健師		年	年		
診療放射線技師		年	年		
臨床検査技師		年	年		
事務		年	年		
衛生管理者または衛生推進者 ※		年	年		

※　職員が常勤非常勤含め50人以上の施設：衛生管理者と産業医の選任、安全衛生委員会の開催を確認する。
常時10人以上50人未満の施設：安全衛生推進者の選任を確認する。

2-3　専門資格（医師）　※2-1医師数との整合性を確認

認定医・専門医　等	常勤（人）		非常勤（人）
	健診施設専任または本務	病院診療所兼務	
人間ドック認定医			
人間ドック健診専門医			
人間ドック健診指導医			
人間ドック健診情報管理指導士（医師のみ）			
認定内科医			
総合内科専門医			
消化器病専門医			
消化器内視鏡専門医			
循環器専門医			
呼吸器専門医			
産婦人科専門医			
乳腺専門医			
放射線科専門医			
検診マンモグラフィ読影認定医師			
眼科専門医			
超音波専門医			
臨床検査専門医			
産業医（日本医師会認定など）			
＊			
＊			
＊			

＊上記以外の資格を有する場合は、空欄に追加記入のこと。

2-4　専門資格（医師以外）　※2-1職員数との整合性を確認

専門資格	常勤（人）		非常勤（人）
	健診施設専任または本務	病院診療所兼務	
人間ドック健診情報管理指導士認定者（人間ドックアドバイザー）※1 保健師・管理栄養士			
人間ドック健診情報管理指導士修了者（人間ドックアドバイザー） 保健師・管理栄養士以外			
人間ドック健診食生活改善指導士（人間ドック食生活アドバイザー）※1 看護師等			
健康運動指導士 ※2			
日本禁煙学会　認定指導看護師 ※3			
日本禁煙学会　認定専門看護師 ※3			
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師 ※4			
胃がん検診専門技師 ※5			
超音波検査士 ※6			
＊			

※1 日本人間ドック学会が認定するものをさす。

※2 健康・体力づくり事業財団が認定するものをさす。

※3 認定指導看護師および認定専門看護師とは一般社団法人日本禁煙学会が認定するものをさす。

＊上記以外の資格を有する場合は、空欄に追加記入のこと。

※4マンモグラフィ検診精度管理中央委員会が認定するものをさす。

※5 日本消化器がん検診学会が認定するものをさす。

※6 超音波検査士とは、日本超音波医学会が認定するものをさす。

3. 管理・運営

3-1　臨床検査室の管理状況

□	施設検査室		
□	ブランチラボ ⇒	ブランチラボ委託先名	
□	外部検査機関 ⇒	外部検査機関名	

結果報告までの所要時間	○ 3時間未満	○ 3～6時間未満	○ 6時間以上

3-2　細胞診検査

□	施設検査室		
□	ブランチラボ ⇒	ブランチラボ委託先名	
□	外部検査機関 ⇒	外部検査機関名	

3-3　外部精度管理サーベイ参加状況

	主な実施機関	前年	前々年	前々前年
検体検査 ※1		○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施
		○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施
胸部X線画像検査 ※2		○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施
		○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施
腹部超音波検査 ※3		○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施
		○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施	○ 実施 ○ 未実施

（参考）主な精度管理実施機関は以下の通り

※1 日本医師会、日本臨床衛生検査技師会、全国労働衛生団体連合会、日本総合健診医学会

※2 全国労働衛生団体連合会、日本総合健診医学会

※3 日本人間ドック学会・全国労働衛生団体連合会、日本臨床衛生検査技師会

3-4-1　画像読影

二重読影体制	
○	有 ※
○	一部有
○	無

⇒※有のみ右記も回答

○	結果説明前
○	結果説明後

3-4-2　遠隔読影体制

遠隔読影体制の有無	
□	有 ※
□	一部有 ※
□	無

⇒※有／一部有は右記も回答

胸部X線		上部消化管		眼底	
□	遠隔読影	□	遠隔読影	□	遠隔読影
□	他の医療機関	□	他の医療機関	□	他の医療機関
□		□		□	

3-5　当日結果報告書発行（仮報告書も含む）

○	有
○	無

3-5-2　最終結果報告書発行までに要する平均期間

□	1～2週間以内	□	2～4週間以内	□	4～6週間以内	□	6～8週以内	□	8週～10週以内	□	10週以上※
※その他の詳細											

3-6　食事

提供の有無	
◯	有 ※
◯	無

⇒※有のみ
右記も回答

	状況	管理栄養士の関与	
□	1）施設内で調理・提供	◯ 有	◯ 無
□	2）施設外で調理、施設内で提供	◯ 有	◯ 無
□	3）金券・食事券配布	◯ 有	◯ 無
□	4）その他	◯ 有	◯ 無

食事提供に関する補足事項（自由記載）

3-7　禁煙体制

	禁煙体制
◯	1）敷地・施設内禁煙 ※1
◯	2）施設内分煙

禁煙体制に関する補足事項 ※2

※1　病院併設型で院内外に喫煙室が設けられていても、健診施設内が禁煙であれば施設内禁煙とする。

※2　その他禁煙への取り組み（禁煙外来、職員の禁煙　等）があればその取り組みを記載する。

3-8　宿泊（実施施設のみ回答）

	実施状況	宿泊室数
□	1）自施設	室
□	2）ホテル	室

宿泊体制に関する補足事項 ※

※ 宿泊施設の環境、夜間の巡回、保安状況等について記載する。

3-9　IT機器

内　容		実施状況
健診システム	□	健診施設内
	□	併設施設とネットワーク化
	□	無
画像デジタル化	□	すべて
	□	一部
	□	無
サーバー設置場所	□	健診施設内
	□	併設施設内
	□	外部委託

4. 実績（前年度実績）　※算定期間は原則年度（4月～3月）とする。

4-1　算定年度（前年度実績）

算定年度(西暦)	年度

4-2　人間ドック年間稼働日数、実施曜日（前年度実績）

人間ドック年間稼働日数
日

人間ドック実施曜日							
□ 月	□ 火	□ 水	□ 木	□ 金	□ 土	□ 日	□ 祝日

4-3　健診受診者数（前年度実績）

各健診の年間受診者数を入力してください。

種　別	①年間受診者数	②継続受診者数（人）※9	継続受診率（%）	③年間稼働日数	④1日受入人数		医師結果説明	保健指導体制	時間差受付の有無
					最大(人)	平均(人)			
一日ドック ※1			0				□	□	□
二日ドック ※1			0				□	□	□
その他ドック ※2			0				□	□	□
生活習慣病予防健診 ※3							□	□	□
労安法に基づく健診 ※4							□	□	□
特定健診 ※5							メモ（学会事務局記入欄）		
その他ドックオプション検査 ※6									
その他健診（施設内）※7									
巡回健診（施設外）※8									
その他施設内健診 巡回健診等の主な内容									

※1　**一日・二日ドック**：学会が定める【基本検査項目】を満たす人間ドック受診者数を記入。
※2　**その他ドック**：施設内では【〇〇ドック】と称しているものの、学会の基本項目を満たさない受診者数を記入。
※3　**生活習慣病予防健診**：協会けんぽの生活習慣病予防健診、またはそれに準じた健診を指す。
※4　**労安法にもとづく健診**：定期健康健診等を指す。
※5　**特定健診**：高齢者医療確保法にもとづく健診（単独実施）を指す。
※6　**その他単独ドック（オプション検査）**：単独の部位を調べることを目的とするドック（脳ドック等）等の検診、検査を指す。
なお、人間ドックにオプションとして実施した場合もここに含む。一人が複数のオプションを実施する場合はその合計を記入。
※7　**その他健診（施設内）**：人間ドック、生活習慣病予防健診等のいずれにも該当しない施設内健診受診者数を記入。
※8　**巡回健診（施設外）**：施設外で行う健診コースを指す。巡回型健診コースが複数の場合は、合計数を算定。
※9　**継続受診者**：過去3年以内に同施設で人間ドックを受診した者とする。

4-4　人間ドック受診者数詳細（性別・年齢別）

種　別	受診者数						
	39歳以下		40～74歳		75歳以上		計（人）
	男性（人）	女性（人）	男性（人）	女性（人）	男性（人）	女性（人）	
一日ドック(基本検査実施)							0
二日ドック(基本検査実施)							0
計	0	0	0	0	0	0	0

4-5　人間ドック受診者数詳細（月別受診者数）

一日ドック（基本検査実施）　受診者数												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
												0

二日ドック（基本検査実施）　受診者数												
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
												0

4-6　受付時間における受付人数（時間差受付がある施設のみ②以降を掲載）

	受付①	受付②	受付③	受付④	最終
人間ドック受付開始時間					
人間ドック受入れ数（枠）					

例：

受付①	受付②	最終
8:00	8:30	11:00
10	7	

5. 診察・結果説明（面談）・指導（前年度実績）

5-1　医師による結果説明

一日ドック	人数	人数／受診者
		0

二日ドック	人数	人数／受診者
		0

・結果説明項目には、「身体計測」「血圧」「尿」「血液検査（血液学、生化学）」の結果を含むことを最低要件とし、その実施人数を5-1に記載すること。

5-2　結果説明体制（前年度実績）

一日ドック

人間ドック健診専門医関与	☐	有（有の場合のみチェック）
診察と結果説明について	☐	診察と同時実施
	☐	診察と別に実施

結果説明	開始時刻	時　　分～ 受付時刻から最短（　　）分後
	終了時刻	時　　分

1人あたり平均説明時間	☐	5分未満	☐	5～10分未満
	☐	10～20分未満	☐	20分以上

結果説明項目（データ・画像提示）		
☐ 身体計測・血圧	☐ 血液・尿	☐ 心電図検査
☐ 腹部超音波	☐ 胸部X線検査	
☐ 上部消化管（胃X線・内視鏡）		
☐ その他（時間帯で説明項目が変わる場合は下記に記載）		

二日ドック

人間ドック健診専門医関与	☐	有（有の場合のみチェック）
診察と結果説明について	☐	診察と同時実施
	☐	診察と別に実施

結果説明　実施日	☐	一日目
	☐	二日目
	☐	日目

1人あたり平均説明時間	☐	5分未満	☐	5～10分未満
	☐	10～20分未満	☐	20分以上

結果説明項目（データ・画像提示）		
☐ 身体計測・血圧	☐ 血液・尿	☐ 心電図検査
☐ 腹部超音波	☐ 胸部X線検査	
☐ 上部消化管（胃X線・内視鏡）		
☐ その他（下記に詳細を記入）		

・健診当日に実施可能な項目は原則すべてチェックすること。（「午後からのみ可能」な結果についても、説明実績がある場合は、該当項目にチェックをする）
・結果説明時に画像を提示し説明することにより受診者の理解が深まり、所見を認める場合には適切な受診勧奨にもつながると考えられる。結果説明時には、可能な限り画像の提示を行えるよう、体制の整備をご検討ください。

5-3　特定保健指導（前年度実績）施設全体として

初回面談実施者数			
特定保健指導（動機づけ支援）		特定保健指導（積極的支援）	

5-4 保健指導（前年度人間ドック実績）

※健診結果に基づく指導全般（特定保健指導・健康相談・生活指導・受診勧奨　等）

一日ドック

保健指導	指導実施数			
	うち、特定保健指導実施者数			
	指導数/全受診者	#DIV/0!		
指導担当者（職種）※複数選択可	☐	保健師	☐	看護師・准看護師
	☐	管理栄養士	☐	その他（医師等）
指導内容※複数選択可	☐	生活改善指導	☐	受診勧奨
	☐	食事指導	☐	運動指導
	☐	結果補足説明	☐	禁煙指導
	☐	減酒指導	☐	*その他（以下に記載）
基準	☐	有		
記録	☐	有		
＊その他の指導内容				

二日ドック

保健指導	指導実施数			
	うち、特定保健指導実施者数			
	指導数/全受診者	#DIV/0!		
指導担当者（職種）※複数選択可	☐	保健師	☐	看護師・准看護師
	☐	管理栄養士	☐	その他（医師等）
指導内容※複数選択可	☐	生活改善指導	☐	受診勧奨
	☐	食事指導	☐	運動指導
	☐	結果補足説明	☐	禁煙指導
	☐	減酒指導	☐	*その他（以下に記載）
基準	☐	有		
記録	☐	有		
＊その他の指導内容				

備考（上記以外に特筆することがあれば記入）

6. 事後管理

6-1　要医療（D判定）フォローアップ（前年度実績）

#N/A ###

		検査実施数（人）※1	要精検数（人）※2	要精検率（%）※2	精検受診数（人）※3	精検受診率（%）※3	精検受診率平均（%）※5
要精密検査（D2）	上部消化管X線			0		0	#DIV/0!
	上部消化管内視鏡 ※4			0		0	
	便潜血			0		0	
	胸部X線			0		0	
	マンモグラフィ			0		0	
	乳房超音波			0		0	
	子宮頸部細胞診			0		0	
	腹部超音波			0		0	#DIV/0!
	心電図			0		0	
	眼底			0		0	
要治療（D1）	血圧			0		0	#DIV/0!
	糖尿病関連			0		0	
	脂質関連			0		0	

※1 **検査実施数**：調査票P6　4-3健診受診者数「一日ドック」および「二日ドック」で実施した検査人数。

※2 **要精検数/要精検率**：検査実施者のうち、精密検査が必要とされた人数とその割合。

※3 **精検受診数/精検受診率**：要精検者のうち、精密検査を受けた人数とその割合。

精検受診の定義について： P10「表1　精検受診の有無の定義」を原則とするが、現時点では、精検受診が確認できたものは算出可とする。

※4 **上部消化管内視鏡検査**：生検実施を指示者数および実施者数とするが、ピロリ菌に関する検査は除く。

※5 **実施把握率平均**：「胃がん」「大腸がん」「肺がん」「乳がん」「子宮頸がん」の精検受診率の平均値（自動計算）。※がん検診のプロセス指標値も参照

6-2　人間ドック受診者における発見がん数（前年度実績）

検査	発見がん数	発見がん内訳		
		早期	進行	不明
胃がん				
大腸がん				
肺がん				
子宮がん				
乳がん				

6-3　追跡検査・経過観察フォローアップ

算定年度（算定期間）	年度

		検査実施数（人）※1	追跡検査指示者数（人）※2	追跡検査指示率（%）	追跡検査経過把握数合計（人）※3	内訳 年内把握① ※4	内訳 翌年把握② ※5	追跡検査経過把握率（%）
再検査経過観察	糖尿病関連			#DIV/0!				#DIV/0!
	脂質関連			#DIV/0!				#DIV/0!
	*			#DIV/0!				#DIV/0!
	*			#DIV/0!				#DIV/0!

※1 **検査実施数**：一日ドック、二日ドックで実施した検査人数を記載。

※2 **追跡検査指示者数**：生活習慣の改善を行い1年未満（3、6ヵ月後など）の再検査指示者数をさす。1年後の経過観察指示者は含まない。

※3 **追跡検査経過把握数**：上記指示者数のうち、再検査実施、生活改善状況などの経過を1年以内（もしくは次回受診時）に把握できた数をさす。

（翌年・次回受診時の面接や保健指導時に適切に確認できたものも把握数として算出可とする。）

※4 **年内把握**：把握数合計のうち、12カ月未満（年内中）の経過把握者数をさす。

※5 **翌年把握**：把握数合計のうち、1年後（次回受診時）の経過把握者数をさす。

＊「糖尿病関連」、「脂質関連項目」以外の追跡検査・経過観察の指示および経過把握実績がある場合は記載。

6-4　調査研究への参加状況

（日本人間ドック学会会員向け調査、国立がん研究センター、消化器がん検診全国集計　等）

	がん統計	調査
アンケート	□ 有	□ 有

6-5　過去３年間の学会活動実績

	日本人間ドック学会	その他（健診に関連する内容）
演題	選択してください▼	選択してください▼
論文	選択してください▼	選択してください▼

7.　その他の補足情報

7-1　自施設ＰＲ

例：当センター基本理念『●●●●●』のもとに、当センターは受診者にとって健康のための「かかりつけ医」の立場を目指し、
継続性のある長期的な受診者との関わり合えるドックを実践している。

7-2　機能評価受審についての取り組み

◇受審申請に向けた主な取り組み施設のアピールポイントを明記してください。評価項目の自己評価コメントとある程度内容が重複しても構いません。

新規の場合は、この受審を機に検討や改善された取り組み、
更新の場合は、前回受審時の指摘事項や課題に対する取り組みなどについて詳細に記入してください。

例：①内視鏡室の感染管理として、カーテンで仕切った。将来的には、内視鏡室の拡張移転の予定あり
②議事録に日付と出席者を記入するようにした
③更衣室にも意見箱を設置し、投書しやすくした。回収率が●%アップした。
④更衣室に姿見と椅子を設置した
⑤１Ｆにも館内案内板を表示した
⑥昼食の成分表示を行った
⑦保健所、看護師、検査技師、放射線技師の増員
⑧事務室の入退室記録をつけ、掲示した
⑨検査精度管理や薬品等の棚卸しにダブルチェックを実施した（確認印）

● **P2の常勤換算①②③は、下記を参照して算出すること。※入力不要**

※「医療法第21条の規定に基づく人員の算出に当たっての取扱い等について」（平成10年6月26日付、平成15年9月5日一部改正）に一部則る。

常勤換算の方法について

$$\text{常勤換算} = \frac{\text{（分子）従業者の1週間の「健診に関わる」勤務時間の合計}}{\text{（分母）当該施設が定める常勤従業者の1週間の通常勤務時間}} \times \text{健診業務のうち人間ドックが占める割合}$$

※「当該施設が定める常勤従事者の1週間の通常勤務時間」が32時間未満の場合は、分母は32時間とする。

※従事者の勤務時間が、1週間でなく1ヶ月単位で定められている場合には、1ヶ月の勤務時間を4で除して得た数を1週間の勤務時間とする。

※「従業者の1週間の健診に関わる勤務時間の合計」は、正確な算出が難しければ概数で構わない。

※常勤換算は、小数点第2位を切り捨て、小数点第1位までとする。

※「健診業務のうち人間ドックが占める割合」は概算で構わない。

＜割合の算出方法の例＞

例① 受診者数を参照する

ドック受診者1,000人、その他の健診4,000人の場合、受診者比率はドックはおよそ2割。加えて、ドックの方がその他健診より検査が多く業務量も多いことを鑑みて、3～4割と考える。

例② 勤務時間帯を参照する

午前中にドック、午後にその他の健診を実施している場合、時間帯比率からドックはおよそ5割。加えて、ドックの方がその他健診より検査が多く業務量も多いことを鑑みて、6～7割と考える。

≪常勤換算　算出例≫

1週間の健診に関わる勤務時間・・・A医師：週36時間　　B医師：週30時間　　C医師：週26時間

●（分子）従業者の1週間の勤務時間の合計＝36＋30＋26=92時間

●健診業務のうち人間ドックが占める割合＝およそ6割

●常勤換算＝92時間／36時間 × 0.6 ＝ 1.53 → 1.5人　となる。（2-1表は以下の通り）

		健診施設 専任または本務	
		人数	ドック従事 常勤換算①
医師の内訳	内科	4.0	1.3

≪よくある確認事項の例≫

例①「人数」と「常勤換算」が同数

	健診施設 専任または本務	
	人数	ドック従事 常勤換算①
保健師	2.0	2.0

上表の様に「人数」と「常勤換算」が同数の場合、この保健師1名は『人間ドック業務のみ従事し、ドック以外の健診及び健診以外の外来業務等も行っていない』という解釈になる。解釈に間違いがないか確認する場合がある。

例②「病院・診療所 兼務」であるが、「常勤換算」の割合が大きい

	病院・診療所 兼務	
	人数	ドック従事 常勤換算②
診療放射線技師	5.0	4.0

常勤換算の分子に、「健診に関わる勤務時間」に加えて「健診以外の外来等に関わる勤務時間」が含まれていないか確認する場合がある。

● **P8の6-1　要医療（D判定）フォローアップ　における【精検受診】は下記を参照して算出すること。**

※精検受診の有無の定義について：　下記「表1　精検受診の有無の定義」を原則とするが、現時点では、精検受診が確認できたものは算出可とする。

（現時点では、精検結果まで把握できていなくても、要精検者の精検日・受診機関・精検法の3つまで確認できていれば、精検受診数として算出よい）

表1　精検受診の有無（精検受診、精検未把握、精検未受診）の定義

精検受診	精検機関より精検結果の報告があったもの、もしくは、受診者が詳細 （精検日・受診機関・精検法・検査結果のの４つ全て）を申告したもの
精検未把握	精検受診の有無が分からないもの、および（精検受診したとしても）精検結果が 正確にわからないもの全て（すなわち、精検受診、精検未受診以外のもの全て）
精検未受診	要精検者が精検機関に行かなかったことが判明しているもの （受診者本人の申告および精検機関で受診の事実が確認されないもの）、 および精検として不適切な検査が行なわれたもの ※ ※精検として不適切な検査とは以下の２つを指す ・大腸がん検診における便潜血検査の再検 ・肺がん検診における喀痰細胞診要精検者に対する喀痰細胞診の再検